

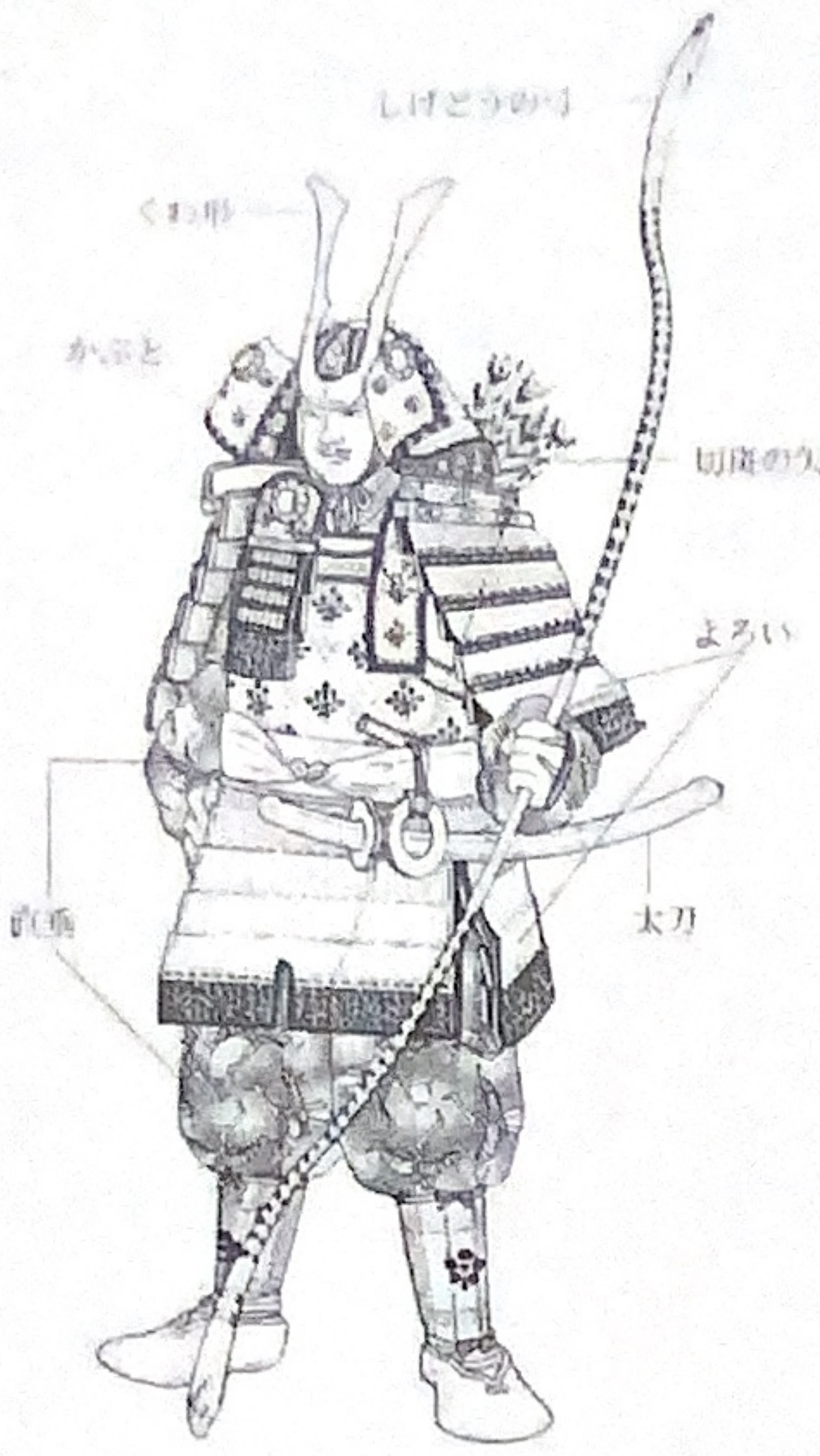
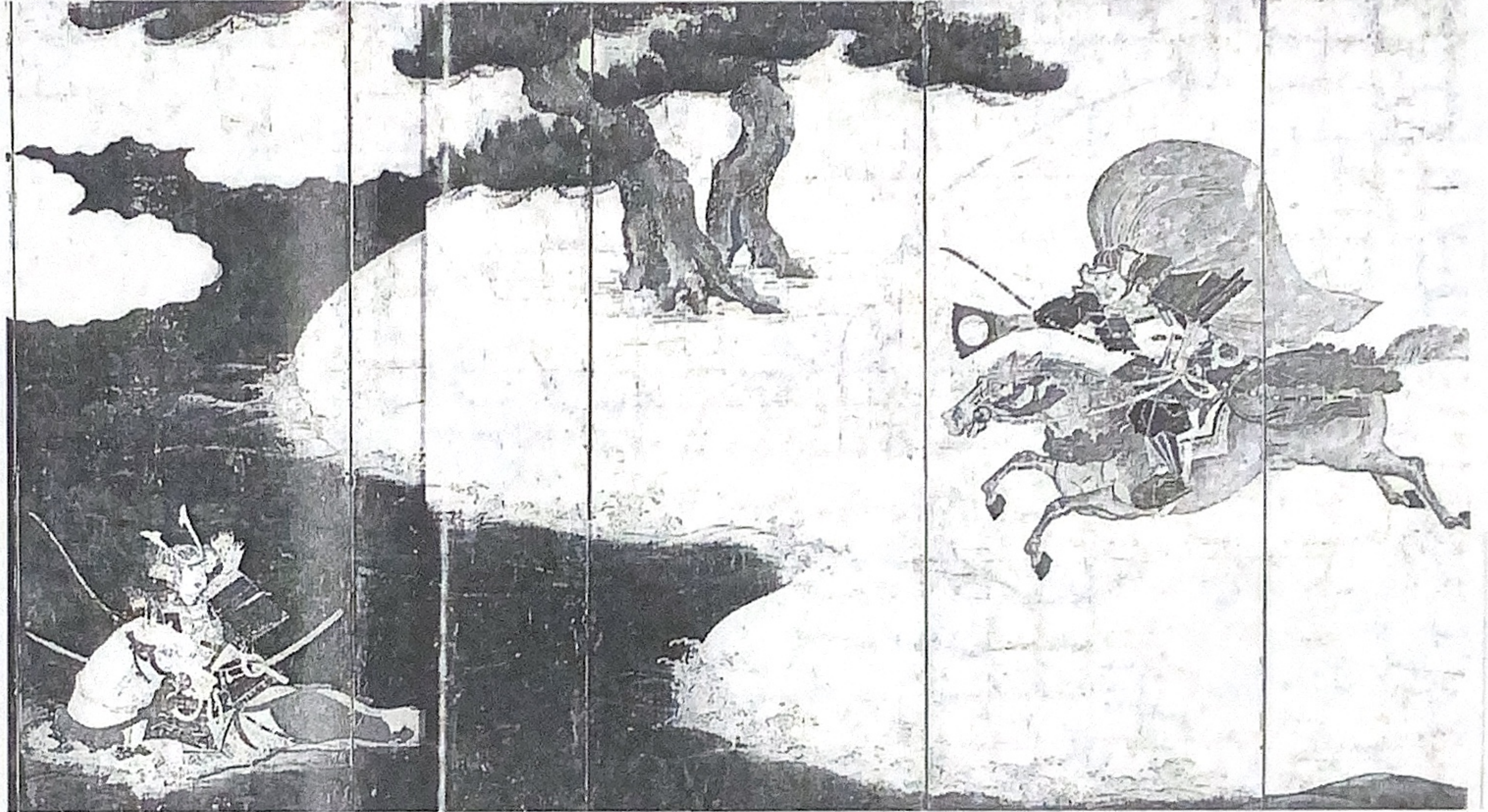
敦盛の最期

平家が、の谷の戦に敗れたので、源氏方の武將、熊谷次郎直実は、「平家の公達は、助け船に乗ろうと、波打ちぎわの方へ逃げておられるだろう。ああ、身分の高い大將軍に出会って取り組みたいものだ。」と思った。

熊谷が磯の方へ馬を歩ませていると、ねりぬきに鶴を縫い取った直垂に、もえぎにおいのよろいを着て、くわ形を打ったかぶとの緒を締め、黄金づくりの太刀を腰に差して、切腹の矢を負い、しげどうの弓を持って、連銭あしげの馬に金覆輪の鞍を置いて乗った武者一騎が、沖の船を口指して、海へざっと馬を乗り入れ、五、六段ほど泳がせている。

熊谷次郎直実 現在の埼玉・熊谷市付近に住んでいた豪族の長
公達 身分の高い人のこと
大將軍 合戦で全軍の指揮・統率をする上の人
直垂 二つ折は、よりの下に着込んだ衣服のこと。なれ、当時の武器や馬具については、別の図参照
縫 縫は刺す、縫い針

「宇治川、一の谷合戦図屏風」(江戸時代の作品) 熊谷次郎直実の差し招きに対して、海へ馬を乗り入れた平 敦盛が振り返った場面。↓



当時の武器と馬具

熊谷

「あれは大將軍とこそ見まゐらせ候へ。まさなうも敵に後ろを見せさせたまふものかな。返させたまへ。」

と扇を上げて招きければ、招かれてとつて返す。みぎはに打ち上がらんとするところに、押し並べてむずと組んでどうと落ち、とつて押さへて首をかかんと、かぶとを押しあふのけて見ければ、年十六、七ばかりなるが、薄化粧して、かね黒なり。わが子の小次郎がよはひほどにて、容顔まことに美麗なりければ、いづくに刀を立つべしもおほえず。

「そもそもいかなる人にてましまし候ふぞ。名のらせたまへ。助けまゐらせん。」

と申せば、
「なんぢはたそ。」
と問ひたまふ。
「ものその者で候はねども、武蔵の国の住人、熊谷次郎直実。」
と名のり申す。

「さては、なんぢにあうては名のるまじいぞ。なんぢがためにはよい敵ぞ。名のらずとも首を取つて人に問へ。見知らうするぞ。」
とそのたまひける。

熊谷が、
「そこを行かれるあなたは大將軍とお見受けいたします。見苦しくも敵に後ろをお見せになるものよ。お引き返しなされ。」

と扇を上げて差し招くと、(平家の武者は) 招かれてさつと引き返す。(その武者が) 波打ちぎわに上がろうとするところに、(熊谷は馬を) 強引に並べてむずと組んでどうと落ち、取り押さえて首をかき切ろうと、かぶとをおおむけにして(顔を) 見ると、年十六、七くらいの(若武者) が、薄化粧をして、お黒髪をつけている。わが子の小次郎の年齢くらいで、顔立ちが大変に美しかったので、(熊谷は) どこに刀を刺したらよいのかもわからない。

「いったい(あなたは) どういう(こ) 身分の) かたでいらつしやいますか。お名のりください。お助けいたしますよう。」
と申すと、
「おまえは誰だ。」
とお尋ねになる。

「ものその数に入るほどの者ではございませんが、武蔵の国の住人、熊谷次郎直実。」
と名のり申す。
「それでは、おまえに対しては名のるまじいぞ。おまえのためにはよい敵だ。名のらなくても首を取つて人に尋ねてみよ。見知っているだろうよ。」
とおつしやった。

◎ お曲腰 側を長くゆるめること。当時、貴族の間で行われた風習。
◎ 武蔵の国 現在の東京都、埼玉、および神奈川県の一部。

1 あげお能・狂言鑑賞会 アウトリーチ
令和6年7月11日 大石南中学校

あげお能・狂言鑑賞会

能に観る

源氏物語

『源氏供養舞入』

シテ 梅若 泰志
ワキ 安田 登
ワキツレ 高橋 正光

物語は虚構で仏法に背くとされた「源氏物語」。

死後もなお成仏できずにいた紫式部は、ついに供養を受け、

後の世の救済を祈り舞を舞う。

そもそも「源氏物語」は、夢のように儂い現実を描いたものであった…。

源氏物語の巻の名を織り込んだ謡も見どころ。

狂言『伯母ケ酒』

シテ 奥津健太郎 アド 野口 隆行

能ではありえない面の扱いも見どころ。

令和6年

11月9日(土)

開演:14時00分(開場:13時30分)

三井金属あげおコミュニティセンターホール

◇入場料◇

全席指定 4,000円

・未就学児の入場はご遠慮願います。
・ご購入後のチケットのキャンセルや
変更、紛失による再発行は
できません。

8月17日(土)9時よりチケット販売開始

三井金属あげおコミュニティセンター、イコス上尾、
あげお富士住建ホール(文化センター)にて取り扱い

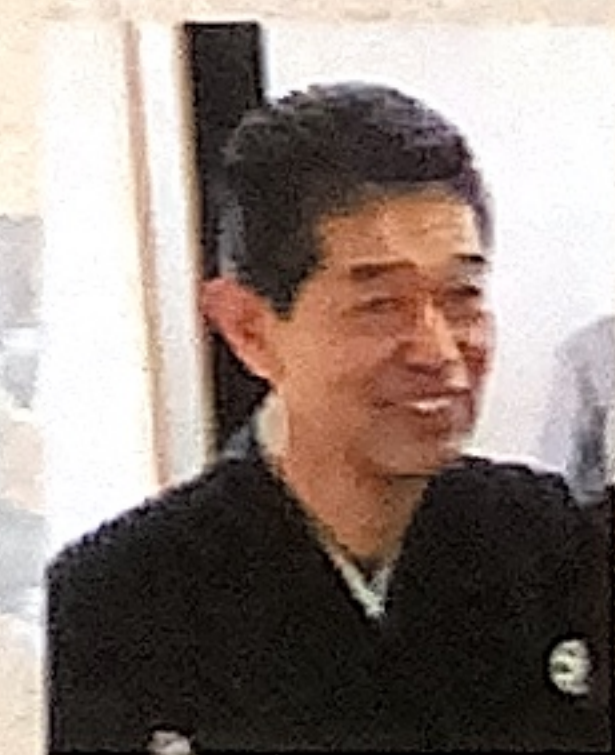
※ コミュニティセンターでは電話予約もできます(8/17(土) 10時より受付)

受講
無料

プレセミナー 9月19日(木)13:30~15:00

能に観る源氏物語

シテ方で出演の観世流・梅若泰志氏より、能の基本や11月9日公演のみどころを解説していただきます。実演や体験のコーナー、ワキ方で出演の下掛宝生流・安田登氏との対談コーナーなど、贅沢な内容です。



梅若泰志氏



安田登氏

どなたでも参加できます。受講希望の方には、8月17日(土)より、コミュニティセンター窓口にて受講券を発行します。

※ 本公演のチケットを購入された方を優先とさせていただきます。

【お問合せ】三井金属あげおコミュニティセンター 埼玉県上尾市柏座四丁目2-3 ☎048-775-0866

【主催】公益財団法人上尾市地域振興公社 【後援】上尾市 / 上尾市教育委員会 / 上尾市観光協会 【協力】株式会社能楽プロ